

2016年12月16日

中日本高速道路株式会社

2017年3月期 中間決算（連結）の概要

1. 業績の概況

当中間連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）（単位：億円）

	2016年度 上期実績 A	2015年度 上期実績 B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	4,316	3,810	506	113.3
高速道路事業	4,048	3,592	455	112.7
(料金収入)	3,376	3,354	21	100.7
(道路資産完成高)	665	233	432	285.2
(その他)	6	4	1	131.7
関連事業	268	217	50	123.3
(休憩所事業)	165	165	0	100.2
(その他)	102	52	50	196.5
営業費用	4,103	3,607	496	113.8
高速道路事業	3,867	3,424	443	112.9
(道路資産賃借料)	2,356	2,405	▲48	98.0
(道路資産完成原価)	665	233	432	285.2
(管理費用等)	845	785	59	107.6
関連事業	236	183	53	128.9
(休憩所事業)	133	131	2	101.6
(その他)	103	52	51	197.9
営業利益	212	202	10	105.0
高速道路事業	180	168	12	107.4
関連事業	31	34	▲2	92.9
経常利益	219	209	9	104.7
中間純利益 ^{※1}	144	137	7	105.1

※1 中間純利益は、「親会社株主に帰属する中間純利益」を記載しています。

※2 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業 等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

- ・新名神高速道路及び東海環状自動車道
四日市ジャンクション～東員インターチェンジ間 5.8km…2016年8月11日開通
- ・中部横断自動車道
六郷インターチェンジ～増穂インターチェンジ間 9.3km…年度内での開通を予定

(上期業績)

○営業収益は、4,048億円（前年同期比455億円増）となりました。

- ・料金収入は、3,376億円（同21億円増）でした。これは、2016年2月に開通した新東名高速道路の開通効果などにより交通量が増加したことによるものです。
また、1日あたりの通行台数は194万台（同0.8%増）でした。
 - ・道路資産完成高は、665億円（同432億円増）でした。これは、新名神高速道路及び東海環状自動車道（四日市ジャンクション～東員インターチェンジ間）の開通に伴って道路資産完成高を計上したことによるものです。
- ##### ○営業費用は、3,867億円（同443億円増）となりました。
- ・道路資産賃借料は、2,356億円（同48億円減）でした。
 - ・道路資産完成原価は、665億円（同432億円増）でした。
なお、道路資産完成高及び道路資産完成原価は、同額で計上されることから損益に影響はしていません。
 - ・管理費用等は845億円（同59億円増）となりました。これは、点検や維持補修など着実な業務執行により維持管理費用が増加したことによるものです。

○上記の結果、営業利益は180億円（同12億円増）となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるエリアづくり、新たな取組み、地域連携

- ・お客さまニーズを捉えた売場改善や、訪日外国人の増加に合わせたインバウンド対応を進めるなど、お客様サービスと収益力の向上を図りました。
- ・映画とタイアップしたキャンペーンの実施や、オリジナルおみやげブランド「プレみや」を展開するなど、サービスエリアの魅力を高める新たな取組みを行いました。東名高速道路EXPASA富士川（上り線）では、新たなランドマークとなる観覧車について、平成29年2月23日の開業に向け建設を進めています。
- ・地元と連携した売り場づくりによる地域商品の販売強化や、地域物産展の実施、近隣住民の方々が参加するイベントの開催など、地域活性化や地域社会との連携強化に努めました。

(上期業績)

○営業収益は268億円（前年同期比50億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○営業費用は236億円（同53億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業利益は31億円（同2億円減）となりました。

3. 通期見込

(単位：億円)

	2016年度 通期見込 A	2016年度 通期見込 (2016.6.9公表) B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	9,207	9,892	▲685	93.0
高速道路事業	8,564	9,191	▲627	93.1
(料金収入)	6,616	6,504	112	101.7
(道路資産完成高等)	1,948	2,688	▲740	72.4
関連事業	642	701	▲59	91.5
(休憩所事業)	319	321	▲2	99.3
(その他)	323	380	▲57	85.0
営業利益	56	34	22	164.7
高速道路事業	28	10	18	280.0
関連事業	27	25	2	108.0
経常利益	64	29	35	220.6
当期純利益*	42	19	23	221.0

※当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

(通期見込の摘要)

○料金収入 (前回 6,504 億円→今回 6,616 億円 (112 億円の増))

- ・上期の料金収入の状況を踏まえて通期見通しに反映しました。

○道路資産完成高等 (前回 2,688 億円→今回 1,948 億円 (740 億円の減))

- ・事業の進捗状況を精査して、当期の道路資産完成高を見直しました。

〔※なお、当社は、完成した高速道路資産を、その建設に要した借入金等の負債とともに、機構に引き渡します。このとき、引き渡す資産の額を道路資産完成原価(費用)に計上し、同額を道路資産完成高(収益)に計上することから、損益には影響しません。〕

○休憩所事業営業収益 (前回 321 億円→今回 319 億円 (2 億円の減))

- ・中間決算の状況を踏まえて、休憩所事業の店舗売上の見通しを反映しました。

○その他関連事業収益 (前回 380 億円→今回 323 億円 (57 億円の減))

- ・受託事業の減少を反映しました。受託事業については、高速道路区域又はその近接部分における工事等を第三者から受託するもので、金額規模によらず損益への影響が限定的です。

○高速道路事業営業利益 (前回 10 億円→今回 28 億円 (18 億円の改善))

- ・料金収入の増加を受けて、損益改善の見通しを反映しました。

以 上